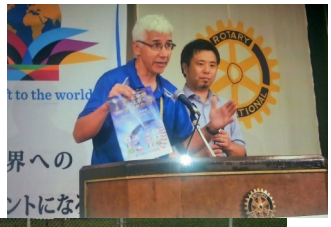
The International Center Newsletter

TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部
国際センター　ニュースレター

Vol. 27 Winter, 2016



上:「2017年U18世界野球大会」関連イベントでの通訳（本人右）
下: 自身が監督を務める野球チーム（本人前列中央）

目次:

Hello from All Corners of the World!	1-3
交換留学ワークショップ2015	4
私のおススメ in Kyoto: Russell Sumitomo	4

1. Hello from All Corners of the World!

海外で活躍しているOGU卒業生は多いと思いますが、今回ご紹介するのは、大学時代の一度の海外旅行をきっかけに卒業後に語学留学をし、その後カナダの大学院に進学、現地で就職、さらには野球を通してカナダと日本の橋渡しをする活動をされている山根 耕治さんです。海外生活を通して、人は一人では生きていけないことに気付き、人との出会いを大切にしてきたことが今の山根さんの活躍の基盤になっています。

山根 耕治（2002年経済学部卒業）

2002年にカナダに渡航し、カナダでの生活も13年目を迎えています。現在私はカナダのトロントにあるセンテニアルカレッジ(Centennial College)というオンタリオ州で最も古い大学の国際教育課に勤務しています。

■カナダ留学を決めたきっかけ

大学時代は英語なんてこの先使うことも話すこともないと思っていました。そのため、英語の勉強はほとんどせず部活動に明け暮れる毎日でした。私は高校まで野球をしていて甲子園への出場も果たしました。ずっと野球を続ける予定でしたが、肩の怪我により続けることを断念しました。目標を失い、何をしたら良いかもわからず、ただ家と大学の往復とアルバイトに明け暮れる毎日でした。しかし、大学3年次の春休みにアメリカ旅行に行き、その時に「伝わらない英語」、「聞き取れない英語」を経験することにより、英語の必要性を切実に感じました。また、英語が話せたらきっと楽しいだろうな、世界が広がるだろうなということも感じました。当時は就職氷河期の時代でしたので、やりたい仕事に就くのではなく、見つかった仕事に就くというのが流れでした。自分もその流れに乗って他の学生たちと同じ道を歩んでいって良いのかと自問自答した結果、両親の了承を得て大学卒業後に留学することを決意しました。

■選んだ留学先はカナダ

カナダを選んだ理由は安全な国で、綺麗な英語が話されているということ、そしてトロントを選んだ理由は移民が多く、たくさんの国籍の人たちが集まる都市であることでした。まずはしっかり英語の基礎を学ぶため語学学校に入学。全く英語が話せなかった私は、初心者レベルのクラスからのスタートでした。しかしホストファミリー、クラスメイトや先生に恵まれ、本当に楽しい留学生活を送ることができました。そして一年後、帰国時期が迫る中、もっと海外で挑戦したい気持ちが強くなり、再度カナダ留学を目指すことにしました。一度日本に戻って2年ほど働き、ワーキングホリデーでカナダに渡航しました。今度は英語の勉強だけではなくカナダの大学院に進学する目標を立てました。その目標も達成し、スポーツ関係の仕事に就きたかった私が大学院で専攻したのは「スポーツ経営学」。しかし、好きな勉強をしているとは言え、海外の大学院で勉強することは並大抵のことではありませんでした。もちろんすべての授業は英語です。語学学校の先生が話すスピードとは比にならないほどのスピードで教授たちは話します。そして70人いるクラスに留学生がたったの4人、しかも日本人は私一人でした。最初は全く友達も作れず、授業にもついていけず、課題に追われる毎日でしたが、徐々に授業に慣れてくると、カナダ人の友達もできて、何とか無事に大学院を修了することができました。

センテニアルカレッジのオフィスにて

■カナダで就職

カナダを選んだもう一つの理由は、カナダの高等教育機関を卒業すると就労ビザが取得できることです。これにより卒業後は現地企業で経験を積むことが可能になります。スポーツ関係の仕事を探していたのですが、この頃から教育にも興味を持ち始め、自分の留学経験がこれから渡航する留学生の助けになるのではと思い始めました。そこで私は現地の留学エージェントに就職し、そこで約7年間勤務した後、カナダの永住権を取得しました。そして現在はセンテニアルカレッジの国際教育課で留学生の入学の申込み手続きや入学後の生活面のサポートをしています。日本人留学生だけではなく、韓国、フィリピン、インドネシア、ベトナム、モンゴルからの留学生もいます。大学では日常的に英語で業務を行い、さらに年に2回は出張で日本に帰国することができるので、とても恵まれた職場です。

■やりたいことができる国、カナダ！

現在、センテニアルカレッジで勤務する傍ら、カナダのオンタリオ州にあるサンダーベイ国際野球連盟（NPO）のメンバーとしても活動しています。2017年に18歳以下世界野球大会がサンダーベイで開催される予定で、日本の高校野球関係者との窓口として日本語と英語を使ってやり取りをしています。スポーツ関係の仕事に就きたいと思ってカナダに来て10年。その目標も達成することができました。この大会業務に携わる中で、私はまだまだ至らないところもあり、色々なことで周りからの厳しい声もいただきましたが、日本の高校生たちを大会に招待することができ、強い気持ちを持って取り組めば思いは叶うのだということを実証できたことは本当に嬉しいです。その他にも日本のTV番組の通訳などもしています。今後も日本とカナダの架け橋になれるように頑張っていきます。

■出会いとネットワークの大切さ

ここまで来られたのは、トロントでのたくさんの方々との出会いとそれを大事に積み上げて作ったネットワークがあったからです。日本では知り合うことのできないような方との出会いや、人を大切にすることでできるネットワークがなければ、今の自分はありませんでした。常に今の環境に感謝しながら、様々な方向にアンテナを張って、やるべきことに取り組んでいけば、次のステップに進むことができ、ネットワークがさらに広がると感じています。

■海外生活を通して感じたこと

海外生活をすることで改めて日本の良さを知ることができ、まだ知らない日本があることに気づきました。気づいたことで色々なことに興味を持つことができ、またそれを勉強することで日本の良さを海外に伝えることができます。私は大学卒業後にあのまま日本にいたら、強がって一人で生きていこうとしていたかもしれません。しかし、海外生活は決して一人では生きていけないことを教えてくれました。また私は海外生活で自分の弱さを知りました。自分の弱さを知ることで人の弱さを理解できるようになりました。さらに海外は性別、年齢、職業、国籍に関係なく一人の人間として周りの人たちと付き合っていける場所だと思います。

久しぶりの母校にて（2015年11月）

■在学生の皆さんへ

卒業した時に全く英語が話せなかった私が今、カナダで働いています。今でも信じられないと思うこともあります。私は海外旅行がきっかけで留学と言う目標ができ、留学をしたことで外国で働きたいという目標ができました。今こうして海外で生活できているのも英語の勉強以上に、出会いを大切にしてきたからだと言っても過言ではありません。海外では日本で知り合うことができない世界の人たちと知り合う機会があります。また、海外に出ると外国から見た日本を知ることもできます。まずは旅行からでも海外に行ってみてはいかがでしょうか。きっと人生の幅が広がり、見ている世界が大きくなると思います。

次に紹介するのは2015年度の交換留学生2名です。まずは韓国のスンチョンヒャン大学に4か月留学をした山部 明日香さんです。アメフト部のマネージャーとして忙しい日々を送っていた山部さんですが、周りからの助言により留学を決めました。日ごろからこつこつ努力をするしっかりした学生です。次はアメリカのカリフォルニア州立大学モントレーベイ校に4か月留学をした徳丸 将志君です。ゼミの先生の影響で1年次より留学を目指し、英語力向上に向けて継続して努力をしてきました。いつも前向きで、周りから慕われている学生です。

スンチョンヒャン大学：山部 明日香（外国語学部3年次生）

韓国人のルームメイトと（本人左）

私のいるアサン市では11月後半には雪が降り、一晩で一面が真っ白になりました。たくさんの留学生が外に出て雪だるまを作ったり、雪合戦をしたりして、雪を満喫していました。雪が降った次の日は気温がさらに下がり、カイロがすぐに冷たくなって、使えなくなるほどでした。日本でも雪は降りますが、こちらの方がかなり寒いです。今回は4か月の留学生活を振り返ってみたいと思います。

8月24日に韓国に来てから今日までずっと感じていることは、「出会いはいつまでも尽きない」ということです。韓国のインチョン空港に到着した時に、これから共に留学生活を送っていく人たちと出会い、それからルームメイト、クラスメイト、Language Exchangeのパートナー、日本語を学んでいるスンチョンヒャン大学の学生、大学内の清掃をしてくれている清掃員の方、電車に乗っていたら話しかけてくれる韓国のおじさんやおばさんなど、色々な人たちと出会い、話をする機会に恵まれました。その多くの人たちとの出会いの中でも、印象深いのが韓国人の「やさしさ」です。それを物語るような実際のエピソードを一つ紹介します。遠出をした帰りの電車で指定席をとることができず、電車内にある休憩車両のようなところにいた時のことです。その日は帰りの時間が遅かったということもあり、たくさんの人がその車両にいて満員でした。私たちはなんとか隙間を見つけて座ることができたのですが、隣に座っていた韓国人のおばさんが、私たちが日本人だと気付き、気を遣ってくれて「私の友達が次の駅で降りるから、その席に座りなさい」と席を譲ってくれました。長時間、

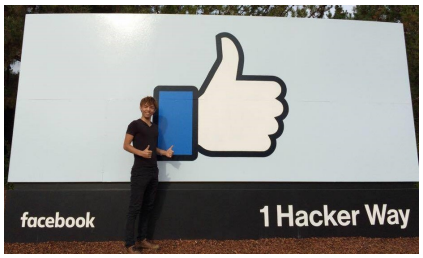
その車両に乗っていなければならなかったので、とても助かりました。このような韓国人のやさしさを感じるエピソードがたくさんあります。

韓国での4か月の交換留学に出発する前は、留学生活が実際にどのようになるのか予測ができず、不安な気持ちもありましたが、結局この4か月はただただ生活や環境に慣れることに精一杯だったように思います。4か月が経った今は、「もっとこうしておけばよかったな」とか「4か月って本当に早かったなあ」という気持ちのほうが大きくて、とても物足りない気持ちで一杯です。また、留学前の事前準備授業で、グループのそれぞれの学生の第一印象を伝えあうというワークショップがありました。その時に私は第一印象が「怖い」と言われたので、そう思われないようにしないといけないという気持ちで韓国に来ました。そして、今、日本に帰国する前になって、中国人の男子学生から「どうして日本人はいつもにこにこ笑っているの？」、「日本人はいつも笑っているね」と言われました。その言葉を聞いたとき、私はすごく嬉しくて、私自身の目標がひとつ達成できたと感じました。

私にとって、この4か月のスンチョンヒャン大学での留学生活は、人生の宝物になりました。ここで出会った友達とはこれでお別れではなく、これからもずっと連絡を取り続けていきたいと思います。今、あっという間に過ぎ去った4か月を振り返り、今回の交換留学を私に勧め、推薦してくださった学部の先生、色々なことを助けてくださった国際センターの方々、スンチョンヒャン大学の先生・スタッフの方々、そして、留学することに賛成してくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。これから、様々な形で恩返しできる自分になりたいと思います。

スンチョンヒャン大学のGlobal Festival 2015にて（本人前列右）

カリフォルニア州立大学モントレーベイ校：徳丸　将志（経営学部ホスピタリティ経営学科3年次生）



Facebookの本拠地で

先週やっと全ての課題、プレゼンテーション、そして期末テストが終わりました。この4か月間、毎日、常に大量の課題と格闘してきたので、本当にやっと終わったという感じです。今は少しホッとしています。

忙しい学期でしたが、休日には色々な場所に出かけ、アメリカでの大学生活を満喫しました。10月のハロウィンには、皆が同じようなコスチュームを着てパーティーに向かう中、私はなぜか“アナと雪の女王”のAnnaになり、知らない人から「Anna!」と声をかけられたり、写真を撮ろうと言われたり、かなりの人気者になりました。11月のThanksgiving Breakでは、友達に会いに一人でフロリダに行きました。航空券の購入から、旅に関わるすべてを自分で手配したので、失敗もありましたが、それも含めて新たな体験をすることが多く、とても思い出に残る旅となりました。大みそかにはニューヨークのTimes Squareでカウントダウンをする予定です。ここでは書ききれないぐらい様々な経験をしたのは、何事にも代えられないPricelessな思い出です。

今振り返ってみればこの一学期間は本当にあっという間でしたが、数え切れないほど様々なことを学び、感じました。寮での最初のパーティーでは、皆のしゃべるスピードが速くて、ただただ会話に苦労したことを今でも覚えています。その時初めて英語への拒否反応を覚え、日本人とばかり過ごしたこともありましたが、一週間ほどでやはり良くないと気付き、だめでもがんばろうと開き直ることができました。何をするにも自分次第で結果は変わるということを学んだ出来事でした。テスト前には留学生だけでなく、アメリカ人の学生も図書館に籠って勉強するので、席が空いていないことが多く、日本の学生との違いに驚きました。勉強と遊びの区別がはっきりしているアメリカ人の学ぶ姿勢を目の当たりにして、自分の姿勢を見つめ直す良い機会になりました。また、アメリカ国内や海外での悲惨な事件をニュースで見るにつけ、日本の治安の良さを改めて感じました。これらの経験すべてのおかげで、まさに世界に向ける目が変わりました。

この留学を通して、語学を学んだのはもちろんですが、なにか語学以上に大切なものが学べたような気がします。これらの経験はすべて今後の人生に活きると確信しています。なぜなら、日本という島国を出て、異国の地で様々なことを吸収し、経験したことが、自分に多方面からの自信を与えてくれたからです。この経験こそが自分の強みになると感じています。大学生活の中で、最高の一学期を過ごすことができました。最後に、この留学に携わってくださったすべての人に、最高の留学生活をありがとうと言いたいです。

上：学生寮の仲間たちと（本人後列右端）
右：OGUで出会った留学生たちと再会（本人中央）

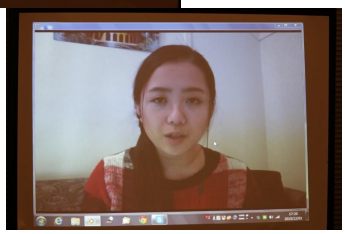
※どちらも2015年12月に書かれたものです。

2. “交換留学ワークショップ2015”

交換留学帰国学生(左から大島さん、田中君、桂さん、松本君、嵯峨山君)

2014年12月、当時国際センターで仕事をしていた卒業生の小柳 明子さんが、大学生活のできるだけ早い時期に、留学という選択肢があることを在学生に知ってもらいたいという主旨から第1回目の交換留学ワークショップを企画、実施しました。今年度は、国際学部3年次生の大島 光恵さんを中心とした交換留学帰国学生がすべての企画、実施を担当し、2015年12月4日に第2回目の交換留学ワークショップを開催しました。

今回のワークショップは大きく3つのテーマで進められました。



ビデオメッセージを送ってくれた卒業生(上:三崎大地さん、下:比嘉春奈さん)

1)交換留学中の学生とのSkype通話

Skypeで日本、台湾、アメリカの三元を繋ぎ、現在、台湾の静宜大学に留学中の国際学部3年次生小山 慶(ちか)さんとカリフォルニア州立大学モントレーベイ校に留学中の外国語学部2年次生原 克典君から現地の様子を聞きました。二人とも現地での勉強に奮闘しながらも、現地になじみ、元気に留学生活を送っているようでした。参加者からも二人に質問が出て、留学先からの生の声を直接聞く貴重な機会になりました。このようにインターネットを使えば、世界のどこにいても繋がり、情報を共有できます。

2) 交換留学帰国学生から学ぶ留学の魅力

彼らの経験はまさに「百聞は一見に如かず」で、実際に彼らが体験した留学生活から学ぶことは多かったのではないでしょうか。留学は貴重な時間を使い、お金を出して苦労を買いに行くようなものです。でもその苦労が自分を大きく成長させるのだというメッセージを実体験を交えて在学生に伝えてくれました。

3) 卒業生から聞く留学とキャリアの関係

留学経験のある卒業生がビデオメッセージを送ってくれました。一人目は在学時代にミシシッピ大学に交換留学に行き、卒業後にクイーンズランド大学の大学院に進学、現在は㈱ニトリに勤務している三崎 大地さん(2012年国際学部卒業)です。様々なところで取り上げられていたのでご存知の方もいらっしゃると思いますが、入学当初TOEIC 280点しか取れなかった彼が交換留学をし、卒業時には800点を超える点数を取るまでになった伝説の卒業生です。今はニトリで海外に関わりながら仕事をしています。もう一人は、在学中にセント・トーマス大学に交換留学をし、現在オレゴン州のコンコルディア大学の大学院で、国際開発とサービス学を学ぶ比嘉 春奈さん(2013年外国語学部卒業)です。交換留学をしたことでアメリカに魅せられた比嘉さんは、帰国後も再度アメリカで学びたいという一心で大学院進学を実現し、毎日泣きながら頑張った大学院生活ももうすぐ無事に修了を迎えるそうです(この翌週に無事大学院修士課程を修了し、現在アメリカで就職活動中です)。二人とも努力の末、自分の夢を実現したすばらしい先輩モデルです。努力をすれば夢は実現することを熱く語ってくれました。

交換留学をした学生たちは、このように自分たちで考える力、何かを生み出す力、作り出す力をを身に付けて戻ってきます。この力は、彼らがこの先どこに行ったとしても、何をしたとしても役立つ力です。留学経験とは本当に素晴らしいと改めて感じました。

Skypeのグループトーク(左:アメリカの原君、中央下:日本の大島さん、右:台湾の小山さん)

私のおススメ in Kyoto ～ Russell Sumitomo

楽しい時間を過ごしたい、少し冒険がしたいと思っている人にお勧めなのが京都の嵐山です。「京都？！」と思っていませんか。京都はいつでも手軽に行ける場所かもしれませんが、その中でも嵐山には楽しめる場所がたくさんあります。渡月橋を渡り、竹林を散策し、天龍寺や常寂光寺でゆっくりした時間を過ごす。そして、申年の今年は、私の“友達“のいる「嵐山モンキーパークいわたやま」も外せません。このパークには坂を20分も登れば京都市内が一望できる場所があります。そして、このモンキーパークでは、100頭以上の猿が群れを作って自由に暮らしています。モンキーパークの後は、嵯峨鳥居本通りを歩きながら、抹茶アイスクリームとわらび餅を食べる。行きたくなりましたか？私が特にお勧めするのは、春の桜、秋の紅葉の季節の嵐山です！(国際センタースタッフ)

★ホストファミリーとホームビジットファミリーを随時募集しています。

興味をお持ちのファミリーは、詳細情報をお送りしますので、inoffice@ogu.ac.jpまでご連絡ください。

大阪学院大学／大阪学院大学短期大学部 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号
TEL: 06-6381-8434(代表)
FAX: 06-6381-8499
Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。
http://inoffice.blog102.fc2.com/

※「四方山話」、「私のおススメ」コラムへの投稿を募集します。興味のある学生、教職員は国際センターまで！

2016.2.1発行